

久留米工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)		授業科目	機能有機材料特論	
科目基礎情報							
科目番号		6C20		科目区分	専門 / 選択		
授業形態		講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科		物質工学専攻 (生物応用化学コース)		対象学年	専1		
開設期		後期		週時間数	2		
教科書/教材		「ナノテクノロジーと有機材料」 服部憲治郎・山本靖 著 米田出版					
担当教員		津田 祐輔					
到達目標							
1. 有機化学・物理化学・生物化学・高分子化学などの基礎知識を再確認する。 2. 化学 (科学) の機能有機材料への応用を知る。 3. 最先端の機能有機材料に関する知識を身につける。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		有機化学・物理化学・生物化学・高分子化学などの基礎知識を良く理解している。		有機化学・物理化学・生物化学・高分子化学などの基礎知識を再確認した。		有機化学・物理化学・生物化学・高分子化学などの基礎知識を再確認していない。	
評価項目2		化学 (科学) の機能有機材料への応用を良く認識している。		化学 (科学) の機能有機材料への応用を知っている。		化学 (科学) の機能有機材料への応用を認識していない。	
評価項目3		最先端の機能有機材料に関する知識を良く身につける。		最先端の機能有機材料に関する知識を身につける。		最先端の機能有機材料に関する知識を身につけていない。	
学科の到達目標項目との関係							
JABEE C-1							
教育方法等							
概要		有機化学・物理化学・生物化学・高分子化学などの基礎知識に基づき、化学工業において広範に用いられている機能有機材料について見識を深め、化学の機能有機材料工学への応用について知る。特に高専本科であり学ぶ機会が少ない分野 (油脂、界面化学材料、香料、化粧品、色素、印写、エレクトロニクス材料・医薬・農薬、有機ケイ素材料、有機フッ素材料) にも焦点をあてる。実務経験のある教員による授業科目：この科目は企業で機能有機材料の開発を担当していた教員が、その経験を活かし、機能有機材料の応用と最先端の有機機能材料について講義形式で授業を行うものである。					
授業の進め方・方法		板書を中心とした講義形式だが、随所にパワーポイント教材、ビデオ教材を加える。有機化学、高分子化学の復習も随所に加える。本科目は学修単位科目であるので、授業時間以外での学修が必要であり、レポートを課題として課す					
注意点		(1) 点数配分：中間試験50%、期末試験50% (2) 評価基準：60点以上を合格とする。 (3) 再試：再試を行う。 (4) 授業時間以外での学修が必要であり、これを課題として課す 次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと					
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	ナノテクノロジーと有機化合物 (1)		ナノテクノロジーと有機化合物に関して理解している		
		2週	ナノテクノロジーと有機化合物 (2)		炭素資源と有機化合物に関して理解している		
		3週	油脂と界面化学材料 (1)		油脂とその応用に関して理解している		
		4週	油脂と界面化学材料 (2)		界面活性剤の基礎と応用を理解している		
		5週	香料・化粧品 (1)		香料の基礎と応用を理解している		
		6週	香料・化粧品 (2)		化粧品の基礎と応用を理解している		
		7週	色素材料 (1)		染料の基礎と応用を理解している		
		8週	色素材料 (2)		顔料の基礎と応用を理解している		
	4thQ	9週	印写材料 (1)		写真フィルムの基礎と応用を理解している		
		10週	印写材料 (2)		各種印刷法と有機機能材料の応用を理解している		
		11週	有機エレクトロニクス材料 (1)		半導体リソグラフィーと有機機能材料の応用を理解している		
		12週	有機エレクトロニクス材料 (2)		各種ディスプレイに関する有機機能材料の応用を理解している		
		13週	有機エレクトロニクス材料 (3)		各種ディスプレイに関する有機性有機色素の応用を理解している		
		14週	医薬・農薬 (1)		医薬に関する有機機能材料の応用の概略を理解している		
		15週	医薬・農薬 (2)		農薬に関する有機機能材料の応用の概略を理解している		
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週
専門的能力	分野別の専門工学	化学・生物系分野	有機化学	有機物が炭素骨格を持つ化合物であることを説明できる。		3	後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後14,後15
				代表的な官能基を有する化合物を含み、IUPACの命名法に基づき、構造から名前、名前から構造の変換ができる。		3	後1
				σ結合とπ結合について説明できる。		3	

				混成軌道を用い物質の形を説明できる。	3	
				誘起効果と共鳴効果を理解し、結合の分極を予測できる。	3	
				σ 結合と n 結合の違いを分子軌道を使い説明できる。	3	
				ルイス構造を書くことができ、それを利用して反応に結びつけることができる。	3	
				共鳴構造について説明できる。	3	
				炭化水素の種類と、それらに関する性質および代表的な反応を説明できる。	3	
				芳香族性についてヒュッケル則に基づき説明できる。	3	
				高分子化合物がどのようなものか説明できる。	3	後9,後10,後11,後12,後13
				代表的な高分子化合物の種類と、その性質について説明できる。	3	
				高分子の分子量、一次構造から高次構造、および構造から発現する性質を説明できる。	3	
				高分子の熱的性質を説明できる。	3	
				重合反応について説明できる。	2	
				重縮合・付加重合・重付加・開環重合などの代表的な高分子合成反応を説明でき、どのような高分子がこの反応によりできているか区別できる。	2	
				ラジカル重合・カチオン重合・アニオン重合の反応を説明できる。	2	
				ラジカル重合・カチオン重合・アニオン重合の特徴を説明できる。	2	
			無機化学	イオン結合と共有結合について説明できる。	2	
				基本的な化学結合の表し方として、電子配置をルイス構造で示すことができる。	2	
				金属結合の形成について理解できる。	2	
				代表的な分子に関して、原子価結合法(VB法)や分子軌道法(MO法)から共有結合を説明できる。	2	
				電子配置から混成軌道の形成について説明することができる。	2	
				結晶の充填構造・充填率・イオン半径比など基本的な計算ができる。	2	
				配位結合の形成について説明できる。	2	
				水素結合について説明できる。	2	
				錯体化学で使用する用語(中心原子、配位子、キレート、配位数など)を説明できる。	2	
				錯体の命名法の基本を説明できる。	2	
				配位数と構造について説明できる。	2	
				代表的な錯体の性質(色、磁性等)を説明できる。	2	
			分析化学	光吸収について理解し、代表的な分析方法について説明できる。	3	
				Lambert-Beerの法則に基づく計算をすることができる。	2	
				無機および有機物に関する代表的な構造分析、定性、定量分析法等を理解している。	3	
				クロマトグラフィーの理論と代表的な分析方法を理解している。	3	
				特定の分析装置を用いた気体、液体、固体の分析方法を理解し、測定例をもとにデータ解析することができる。	3	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	40	0	0	0	0	0	40
専門的能力	40	0	0	0	0	0	40
分野横断的能力	20	0	0	0	0	0	20